

H 世界史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はⅠ～Ⅲとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I. 次の文を読み、文中の下線部1)～23)にそれぞれ対応する下記の設問1～23に答えよ。

解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

地球上に人類が広まると、生活手段が狩猟・漁労・採集に留まるあいだは、出生率と死亡率の均衡により人口は増えなかった。¹⁾ ようやく紀元前9000～8000年ころに人類史上の「農業革命」がはじまって、前8000年ころに800万人であった地球上の人口は、100年につき4%の割合で増加するようになり、前4000年には6000万人に達したと推定される。この革命によってナイル川流域からガンジス川流域にいたる広大な乾燥・半乾燥地帯に多数の農耕集落が成立していった。²⁾ やがて前3000年ころ、³⁾ シュメール人が都市国家を作ったあたりから世界各地に都市が建設されはじめ、⁴⁾ いわゆる人類史上の「都市革命」が幕を開けた。⁵⁾ 都市は農村に比べて一般に衛生状態が悪く、人口密度の高さが伝染病の流行を招くなど、そこでの人口は再生産され難かったから、都市革命が世界人口を爆発的に増加させることはなかった。実際、紀元後19世紀にいたるまで都市における死亡率は農村のそれを上回っていた。こうした死亡率格差にもかかわらず都市化が進んだのは、歴史人口学の視点に立つと、農村における出生率が高く、⁶⁾ 過剰な農村人口が都市に流入し続けたから、と⁷⁾ 考えられる。

結局、都市革命以降においても、人口増加率は100年につき5%の上昇に留まったと推定される。工業化以前においては、例えば14世紀半ばの黒死病や17世紀の三十年戦争のような、時に都市や地域の人口を壊滅させる災厄が起こったし、⁸⁾ そうでない場合でも、⁹⁾ 乳児の死亡率は20～40%にも達したので、平均寿命は古代ギリシア・ローマ時代には15～25年、¹⁰⁾ 18世紀後半でも30～40年にすぎなかったという¹¹⁾ 研究結果が出ている。¹²⁾

歴史上類を見ない人口の爆発的増加がはじまったのは18～19世紀、産業革命とそれに引き続く工業化を経験した欧米諸国においてであった。生産力上昇に伴う栄養状態改善による他にも、¹³⁾ 科学技術発達に伴う衛生環境の改善や新たな治療法の開発などにより、19世紀初頭から顕著な死亡率の低下が¹⁴⁾ もたらされた。反面、出生率の低下はその後100年近く見られなかったから、欧米地域を中心に人口は増え、世界の人口は1750年代に8億人であったものが1900年には16億人と倍増した。とはいえ19世紀末からは¹⁵⁾ 出生率の明確な低下が見られるようになり、その後も低下し続けたので、先進国では人口成長はいったん落ち着きを見せた。¹⁶⁾

これに対し、発展途上国で19世紀末からはじまった人口増加は今日も続き、世界の人口爆発は空前の規模に達している。すなわち、発展途上国では、今日なお死亡率が低下し続けているのに対し、出生率の低下はようやく1960年代からはじまったばかりであり、¹⁷⁾ 両者

が均衡しはじめている先進国の場合と異なって、出生率と死亡率の間になお大きな開きがある。その結果、世界人口は1950年の25億人から1990年には53億人に達し、2011年には70億人を数えるまでになった。¹⁸⁾

ところで、人口増加の問題は、近代以降の学問・思想界にも大きな影響を与えてきた。1798年に『人口論』を著した古典派経済学者は、人口増加は人間の進歩の不可欠の刺激に¹⁹⁾なっているという面を認めつつも、「幾何級数的に増加する人口と算術級数的に増加する食糧の差により人口過剰、すなわち貧困が発生する」と指摘し、人口過剰の弊害を説いた。これに対し、20世紀に入ると先進国での出生率低下が顕在化する一方、1920年代には世界恐慌が起こるなど経済の不安定さが露呈したが、こうした状況を背景に、イギリスの経済学者ケインズは、有効需要が生産量および雇用量を決定するとの新しい理論を打ち出し、有効需要創出の観点からは、人口増加が経済を脅かしているわけではないと説いた。1950年代に、発展途上国での飢餓など、人口過剰の問題が深刻に受け止められはじめると、再び『人口論』²¹⁾の著者の説が息を吹き返し、途上国における人口抑制の必要性が唱えられるようになった。しかし、こうした学説に対する発展途上国側からの反発は激しく、1974年にブカレストで開かれた「世界人口会議」では、人口抑制より先に経済発展を優先²²⁾させるべきとの反論が加えられた。1980年代後半からは、地球環境破壊の問題と人口増加の問題が絡めて論じられるようになる。

人口増加と環境・生態系破壊が関連していることの証明は不十分で、悲観論者と楽観論者が相半ばしている現状であるが、環境問題を過度に人口過剰の問題と結びつけ、オゾン層破壊や地球温暖化の責任を発展途上国の人口増加に押しつけることは正当ではあるまい。フロンガスや二酸化炭素の生産・排出の責任の7割以上は、1990年時点で、世界の人口の²³⁾2割を占めるにすぎない先進国に属していたからである。こうした事情は今日でもあまり変わっていない。

1. こうした生活手段に基づく経済を何と呼ぶか。その名をしるせ。
2. この革命を別名何と呼ぶか。その名をしるせ。
3. 「エジプトはナイルのたまもの」と述べた歴史家の名をしるせ。
4. この川の流域には前1000年ころ、アーリア人が侵入し、定着して新しい文明を築いたが、彼らの信仰を示す聖典のうち最古のものを何と呼ぶか。その名をしるせ。
5. シュメール人の築いた都市国家でないものを、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
a. ウル b. ウルク c. バビロン d. ラガシュ

6. 中国黄河流域では竜山文化期末期から春秋時代にかけて、邑と呼ばれる農耕集落やそれらを服属させた大邑と呼ばれる都市国家が成立した。竜山文化期の遺跡を、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. 河姆渡遺跡 b. 姜寨遺跡 c. 城子崖遺跡 d. 半坡遺跡
7. 中国の唐代から宋代にかけて、政治の中心であった都市の城壁外に草市と呼ばれる自然発生的交易所が生まれ、やがてそれらは都市に発展していった。これらの地方の小都市を何と呼ぶか。その名をしるせ。
8. この時代、中国では韓林兒に指導された大規模な農民反乱が起こり、その後の混乱の中、人口が激減した。この反乱の名をしるせ。
9. ポーランドはこのときの黒死病の影響をあまり受けず、やがて15世紀初頭には最盛期を迎えた。この最盛期時の王朝を何と呼ぶか。その名をしるせ。
10. この戦争で戦場となったドイツでは人口の3割から4割が失われたといわれる。この戦争後に結ばれたウェストファリア条約の内容として正しくないものを、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. スイス独立が認められた
- b. スウェーデンの西ポンメルン領有が認められた
- c. フランスのアルザス領有が認められた
- d. ルター派が公認された
11. ギリシア人はポリスと呼ばれる都市国家を形成し、人口が増えると植民活動を通じてポリスを増やしていった。ギリシア人のポリスのうち、プリニウスによれば90もの植民市を作ったと伝えられるほど有力で、イオニア諸都市のペルシアに対する反乱の中心となったものは何か。その名をしるせ。
12. ローマ帝国は都市国家の統治組織をそのまま残し、都市国家を支配する形で帝国を築いた。今日の各国の首都のうち、ローマ領内に属したことのない都市を、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。
- a. アンマン b. チュニス c. プラハ d. ロンドン
13. 18世紀後半、あるドイツの歴史家は、同時代の自国における農村工業の進展と人口増加の関連について、次のように記述している。次の文中の空所(i)・(ii)にあてはまるもっとも適当な語句を、それぞれに対応する下記の a～d から 1 つずつ選び、その記号をマークせよ。

「まさに (i) や糸つむぎで生計を立てることのできるチャンスが与えられたことによって、以前には農耕ときわめて有用な手工業を営む者に限られていた

(ii) がきわめて容易になり、農村には人間が満ち溢れるようになった。」

(i) a. 石炭掘り b. 機織り c. 羊毛刈り d. 綿繰り

(ii) a. 結婚 b. 商売 c. 借家・借地 d. 余暇活動

14. 19世紀末にコレラ菌や結核菌を発見した学者は誰か。その名をしるせ。

15. この時代にハノイを首都にヴェトナムを支配していた王朝の名をしるせ。

16. この時代の出生率低下について、「貧困多産」から「貧困少産」への移行に原因を求め
る説がある。この説に則って欧米社会を考えたとき、イギリスで19世紀後半に出された
教育法に代表される初等教育の義務化は出生率低下に少なからぬ影響を与えたと考えら
れる。そのメカニズムについて記した次の文中の空所 (i) ・ (ii) にあてはまるもっとも
適当な語句を、それぞれ対応する下記の a ~ d から1つずつ選び、その記号をマークせよ。

「初等教育の義務化により、就学率が上がり、貧困家族は (i) の労働による
家計収入獲得を期待できなくなった。その一方、やがて教育を受けた人材に対する労
働市場からの評価が高まると、教育は、子女・子弟にとって社会的 (ii) の機会
を増やすことになったので、子供の数を制限し、よい教育を受けさせることを有利と
感じる家族が貧困層にも増えた。」

(i) a. 児童 b. 女子
c. 初等教育を受けていない青年 d. 長子以外の男子

(ii) a. 均質化 b. 交際 c. 上昇 d. 制裁

17. アフリカで1960年にソ連の支援を受けて着工され、1970年の完成後はダム湖である
ナセル湖の漁業や周辺への農業用灌漑^{かんがい}などで安定した食糧供給に多大な貢献をすること
になったダムを何と呼ぶか。その名をしるせ。

18. この年にアフリカで、フツ族とツチ族の間ではじまった内戦の名をしるせ。

19. この学者は誰か。その名をしるせ。

20. この学者の学説の影響を受け、国家が経済に積極的に介入すべきとの立場から大恐慌
による経済危機からの脱出を図ったアメリカで、その政策の一環として農産物価格の安
定と農民の救済を目的に成立した法を何と呼ぶか。その名をしるせ。

21. 食糧の生産・流通を改善する目的で設置され、発展途上国の飢餓の解決などにも取り
組んでいる1945年設立の国連機関を何と呼ぶか。その名をしるせ。

22. この2年前には環境をテーマにした最初の国際会議が開催され、人間環境宣言を採択
した。この会議が開催された都市はどこか。その名をしるせ。

23. 1997年、先進国の温室効果ガス排出削減を目標に開かれた国際会議を何と呼ぶか。そ
の名をしるせ。

II. 次の文を読み、下記の設問A～Cに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

男系相続者不在のために、マリア＝テレジアにハプスブルク家を継承させようとした神聖ローマ皇帝（イ）の死後、オーストリア継承戦争がおこった。マリア＝テレジアはイギリスやハンガリーの支援を取り付け、敵対する勢力と戦った。1748年の和約によって、シュレジエンのプロイセンへの割譲という犠牲を払って、彼女のハプスブルク家継承は確定した。マリア＝テレジアは同地方の回復のために、ヨーロッパ諸国を驚かせたブルボン家との連携の中で七年戦争をたたかったが、その回復はならなかった。彼女は帝国維持のために一連の改革を行い、それは長男くあ>の治世に引き継がれた。くあ>は、一方ではポーランド分割に参与しつつ、農奴解放令や宗教寛容令を發布したが、国内の抵抗によって改革は徹底できなかつた。

フランス革命はブルボン家とハプスブルク家との連携を断ち切った。マリア＝テレジアの娘マリ＝アントワネットを妃としたルイ16世が、1791年にオーストリアへの逃亡途上に国境近くで捕えられると、オーストリアはプロイセンとともに、くい>宣言を発し、ルイ16世の救援を諸国に呼びかけた。翌1792年、フランスは両国と戦争状態に入り、両国連合軍のフランス国内への侵入を許すが、同年9月にはフランス東部のくう>での戦いで、義勇軍を中心とするフランス軍は両国軍に勝利した。ナポレオンの皇帝即位後、1805年12月にオーストリア領くえ>の戦いで、ナポレオンがロシア・オーストリア軍を撃破し、ライン同盟が結成されると、最後の神聖ローマ皇帝であったフランツ2世は退位し、中世以来の神聖ローマ帝国はここに消滅した。

ナポレオン戦争終結に際して戦後処理を指導したのがメッテルニヒだった。彼は、国際的には大国間の勢力均衡と現状維持を目指すとともに、国内的には厳しい検閲制度を敷き、自由主義運動や民族運動を抑圧した。だが1848年3月のウィーンでの革命はメッテルニヒを失脚させるとともに、ハンガリー、ポーランドなどの民族運動を覚醒させる。オーストリアはロシア軍の支援を得て、1849年にハンガリーの独立運動を鎮圧する。こうして三月革命はいったん終息するが、民族運動はその後もオーストリアの体制を揺さぶることになる。クリミア戦争でのロシアとの対立、イタリア統一戦争での領土喪失、そしてプロイセン＝オーストリア戦争での敗北は、オーストリア＝ハンガリー二重帝国という妥協的国家体制を樹立させた。

さらにこの二重帝国はもう1つの民族問題を抱えることになる。ボスニア＝ヘルツェゴヴィナの反乱をきっかけとするロシア＝トルコ戦争でのロシアの勝利は、ロシアのバルカン半島における勢力を拡大させることになった。しかしオーストリアはイギリスとともに

ロシアの勢力拡張に反対し、(ロ)条約によって、ボスニア=ヘルツェゴヴィナの統治権を獲得し、さらに1908年には同地方を併合した。ここに、第一次世界大戦の引き金となるサライェヴォ事件の背景は形成され、そしてこの大戦の結果、1919年に結ばれた<お>条約でオーストリアはかつての帝国の領土の大半を失うことになる。

A. 文中の空所(イ)・(ロ)にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次の a～d から 1つずつ選び、その記号をマークせよ。

- (イ) a. カール4世 b. カール5世
c. カール6世 d. カール12世
- (ロ) a. ウィーン b. パリ
c. ベルリン d. ロンドン

B. 文中の空所<あ>～<お>それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

C. 文中の下線部 1)～6)にそれぞれ対応する次の問 1～6 に答えよ。

1. ポーランド分割に関する記述として正しいものを、次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。
- a. ワルシャワは、第2次分割においてプロイセンが獲得した
 - b. ワルシャワは、第2次分割においてロシアが獲得した
 - c. ワルシャワは、第3次分割においてプロイセンが獲得した
 - d. ワルシャワは、第3次分割においてロシアが獲得した
2. 1849年にハンガリーの独立を宣言したが、ロシア軍に鎮圧されて亡命した人物の名をしるせ。
3. このときのロシア皇帝の名をしるせ。
4. イタリア統一戦争において、オーストリアが失った地方の名をしるせ。
5. プロイセン=オーストリア戦争前後の出来事 a～d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。
- a. アルザス・ロレーヌ地方のドイツへの割譲
 - b. ヴィルヘルム1世のプロイセン王即位
 - c. 北ドイツ連邦の成立
 - d. デンマーク戦争の勃発

6. この大戦でオーストリア＝ハンガリー二重帝国は解体し、そのなかでチェコスロヴァキアは独立する。独立後のチェコスロヴァキアで初代大統領となった人物の名を、次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. ドプチェク b. ピウスツキ c. ホルティ d. マサリク

Ⅲ。次の文を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

イスラーム世界が政治的に最初に分裂したのは、ウマイヤ家一族がアッバース朝成立直後にイベリア半島に逃れ、のちに後ウマイヤ朝をおこしたときだった。後ウマイヤ朝は、初期には君主が（イ）の称号を用いたが、最盛期のアブド＝アッラフマーン3世の治世にはファーティマ朝に対抗して（ロ）の称号を用いるようになった。

後ウマイヤ朝が自立したころのマグリブには、アッバース朝の力が及ばない地域があった。シーア派の（ハ）はその一例であり、8世紀末ころモロッコに建国された王朝である。また、アッバース朝の統治から離れていく王朝もあった。たとえば10世紀のチュニジアでは、シーア派の一派が（ニ）人を組織してファーティマ朝をたてた。この王朝は10世紀後半になるとエジプトを征服して、首都をカイロに定め、現存する世界最古の大学といわれるアズハル学院を設立した。しかしその後、ファーティマ朝の宰相であったサラフ＝アッディーンは、アイユーブ朝をおこし、この王朝を滅ぼした。

一方、13世紀はじめのイスラーム世界の東端では、インドで最初のイスラーム王朝である奴隷王朝がたてられた。これとその後続く4つの王朝を総称したデリー＝スルタン朝では、ヒンドゥー文化が温存される一方で、イスラームへ改宗する者もあった。14～15世紀になると、北インドでも民衆を中心にヒンドゥー教の最高神に絶対的帰依をとく信仰が広まった。ヒンドゥー教内におこったこの信仰は、神への献身を求める点でイスラーム信仰とも共通点があり、2つの宗教の交流を促し、やがてインド＝イスラーム文化を生み出した。

A. 文中の空所(イ)～(ニ)にあてはまる適当な語句を、それぞれ対応する次のa～dから1つずつ選び、その記号をマークせよ。

(イ) a. アミール b. カリフ c. スルタン d. ワズィール

(ロ) a. アミール b. カリフ c. スルタン d. ワズィール

(ハ) a. イドリース朝 b. プワイフ朝
c. ムラービト朝 d. ムワッヒド朝

(ニ) a. アラブ b. クルド c. ペルシア d. ベルベル

B. 文中の下線部1)～6)にそれぞれ対応する次の問1～6に答えよ。

1. この王朝に関する記述として正しいものを、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. イラクやエジプトなど東方イスラーム世界から学術や芸術がもたらされた
 - b. 9世紀はじめころからマムルークを購入し、軍の主力として用いるようになった
 - c. 11世紀前半、ナスル朝によって滅ぼされた
 - d. フランク王国領を北進したが、トゥール・ポワティエ間の戦いで阻止された
2. この王朝の名の由来となったファーティマは、預言者ムハンマドとどのようなつながりのある人物か。そのつながりとして正しいものを、次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。
 - a. ムハンマドの叔父の娘
 - b. ムハンマドの母
 - c. ムハンマドの孫娘
 - d. ムハンマドの娘
3. ファーティマ朝滅亡後、この学院が教学の中心となったイスラーム宗派の名をしるせ。
4. イスラーム世界においてこの前後におきた出来事 a～d のうち、もっとも古いものを解答欄の i に、次に古いものを ii に、以下同じように iv まで年代順にマークせよ。
 - a. アッバース朝がフラグひきいるモンゴル軍によって滅ぼされた
 - b. イル＝ハン国でイスラーム教が国教とされた
 - c. サラーフ＝アッディーンがイェルサレムを奪回した
 - d. ニザーム＝アルムルクがニザーミーヤ学院を設立した
5. この王朝の創始者の名をしるせ。
6. この信仰を特徴とする宗教運動は、のちにシク教を生み出す基盤になる。この運動を何と呼ぶか。その名をしるせ。

【以下余白】

